

①

『良寛禅師奇話』（五十八話ノ内、四十七話）解良家十三代榮重筆

・師余ガ家ニ信宿日ヲ重ヌ。上下自ラ和睦シ、和氣家ニ充<sup>み</sup>チ、歸去ルト云ドモ、數日ノ内人自ラ和ス。師ト語ルコト一タスレバ、胸襟清キコトヲ覺ユ。師更ニ内外ノ經文ヲ説キ、善ヲ勸ムルニモアラズ。或ハ厨下ニツキテ火ヲ焼キ、或ハ正堂ニ坐禅ス。其話、詩文ニワタラズ、道義ニ不及、優游トシテ名状スベキコトナシ。只道德ノ人ヲ化スルノミ。

・師常ニ黙々トシテ、動作閑雅ニシテ、餘有ルガ如シ。心廣ケレバ體<sup>たい</sup>ユタカ也トハコノ言ナラン。

②

寒氣如何御暮被遊候や住庵

無事罷過候然米、もち、茶、烟草、

菜等いろいろ被下恭受納

仕候さて歳暮御贈物者今日

受取候間別々遣<sup>つか</sup>ハさる、事ハ

御無用ニなし可被下候

与板御隠居如何候や

来春早々御目

に入御礼申上可候 以上

十一月廿日

解良叔問老 良寛

③

・師常ニ酒ヲ好ム。シカリト云ドモ、量ヲ超テ醉狂ニ至ルヲ見ズ。又田父野翁ヲ云ハズ、錢ヲ出シ合テ酒ヲ買<sup>かい</sup>呑コトヲ好ム。汝一盃吾一盃、其盃ノ數多少ナカラシム。

・又烟草ヲモ好ム。初ハ其キセルタバコ入等、自ラ持コトナシ。人ノヲモチテ吸、後ニ自ラ持コトアリ。其隨身ノ具、人ノ家ニ至ルゴトニ多ク忘レテ遺<sup>のこ</sup>スコトアリ。人教テ其品々ヲ書記シ、出立ントスル前、讀コト一反セヨト云フ。師宜也トシテ自ラ其品ヲ書記シテ必讀、今其書付某ノ家ニアリ。

・師音吐朗暢、読経ノ声心耳ニ徹ス。聞者自ラ信ヲ起ス。